

「義父の声」

第3組 正浄寺 森 真理子

随分昔のことです。確か嫁いで1年か2年程経った頃、ある事で思い悩み苦しくなって、どこか一人になれる所はないかと外のトイレに駆け込み、カギをかけて涙にくれておりました。そうすると、義父の足音がだんだん近づいてきて、「真理子さん」という声にハッとして、「はいっ！」と立ち上がると、ドアの向こうから「ここに居ていろいろ苦労はあると思うけど、他に行ってもまた色の違う苦労がある。どこに行っても苦はある。どうしんさる？」と言われ去って行かれました。私はびっくりしたのと恥ずかしいのとで、涙はさっとひいてしまいましたが、「ああ、そうだった。愚痴いっぱい迷っていたのは私の方だったんだ。」と気付かされ、思わず両手が合わさっておりました。その義父も、今年の2月に94歳でお浄土に還られました。生前は、日々の生活を一生懸命に、いのちが尽きるその時まで聞法一筋の歩みでした。

義父の法名は、「歓喜院積智誠」と言います。この「歓喜」とは、念仏の信心を獲たことを表す言葉であります。苦しみの正体を正しく知ることのできた喜び、悩み多き人生を尽くしていく道の開かれた喜びの言葉であります。

仏様の教えに聞かせていただくということがなければ、私共は、我儘いっばいで、自分自身が見えなくなってしまいます。人生の中で悲しみ苦しみ、そして様々に傷付きますが、その中から初めて、温かさ、やさしさ、美しさを感じ合えるのだと思います。失敗や欠陥が智恵となり、「おかげさま、有難う、ご縁でした」と頂いていくことが本当の意味の幸せだと頂いております。